

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査について

資料 3

【趣旨】

保険者（市）が、日常生活圏域ごとに、地域の高齢者の抱える課題の特定（地域診断）に資することなどを目的に実施します。

【調査対象】

市内在住の65歳以上の市民のうち、要介護1～5の認定を受けていない方 5,500人（無作為抽出）

【調査項目】

- ◆ 必須項目 ^{※1} 35問 <調査に必ず含める項目>
- ◆ オプション項目 ^{※2} 31問 <調査に含めるかどうか検討する項目>
- ◆ 独自項目 25問 <保険者（市）が独自で質問項目を設定>

※ 1、2 … 必須項目およびオプション項目は、厚生労働省が示している項目であり、今までの本市でのニーズ調査において、すべて調査に含めてきました。

これらの項目は、実施する保険者が【地域包括ケア「見える化システム」^{※3}】に調査結果を登録することにより、他自治体との比較および地域診断が可能になります。

（必須項目とオプション項目について、質問項目等の変更はできません。）

内容は主に…

○リスクの発生状況の把握

運動器の機能低下、低栄養の傾向、口腔機能の低下、閉じこもり傾向、認知機能の低下など

○社会資源等の把握

ボランティア等への参加頻度、たすけあいの状況、地域づくりの場への参加意向（担い手／参加者）など

○その他

認知症にかかる相談窓口の認知度など

【実施時期（予定）】

令和7年12月10日頃から令和8年1月10日頃まで

【調査方法】

郵送配布、郵送回収によるアンケート調査、WEB

◆ R4年度実施（前回）のニーズ調査項目数
◆ 必須項目 35問
◆ オプション項目 29問
◆ 独自項目 25問

※ 3 見える化システム…介護保険に関する情報を一元化している厚生労働省が提供しているポータルサイト。



調査項目①

＜必須項目・オプション項目＞

厚生労働省「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」を参考

NO	設問内容	設問数	設問内容の意図
問 1	あなたのご家族や生活状況について	6	<ul style="list-style-type: none"> ・介護・介助が必要になった原因 ・主な介護・介助者の状況（高齢者との関係、年齢） ・住まいの状況
問 2	からだを動かすことについて	10	<ul style="list-style-type: none"> ・外出を控えているか否かとのその理由 ・外出の際の交通手段 <p>→運動器機能の低下・転倒リスク・閉じこもり傾向を把握</p>
問 3	食べることについて	10	<ul style="list-style-type: none"> ・むせることがあるか ・歯磨きの状況 ・噛み合わせの状況 ・体重の減少 等 <p>→口腔機能の低下・低栄養の傾向を把握</p> 
問 4	毎日の生活について	18	<ul style="list-style-type: none"> ・電話番号を調べて電話をかけているか ・今日の日付がわからない時があるか ・年金などの書類が書けるか 等 <p>→認知機能の低下、IADLの低下把握</p>
問 5	地域での活動について	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア等への参加状況・今後の参加意向
問 6	就労について	2	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の就労状態 等
問 7	たすけあいについて	8	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や友人・知人以外で、何かあった時に相談する相手 ・友人・知人と会う頻度 ・この1か月間、何人の友人・知人と会ったか 等 <p>→うつ傾向を把握</p>
問 8	健康について	7	<ul style="list-style-type: none"> ・知的能動性・社会的役割・社会参加の状況等を把握
問 9	認知症にかかる相談窓口の把握について	2	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症に関する相談窓口の認知状況を把握

調査項目②

＜独自項目（案）＞

NO	設問内容	設問数	設問内容の意図
問 9	認知症にかかる相談窓口の把握について	1	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような相談窓口を知っているか
問 10	介護保険サービスについて	9	<ul style="list-style-type: none"> ・介護を受けたい場所とその理由 ・保険料の経済的負担感とそう思う理由 ・介護サービスと保険料の関係について（どちらを重視するか） ・在宅介護サービス支給限度額上乗せと利用者負担額について ・市町村特別給付（すっきりさわやかサービス）について
問 11	その他	15	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターについて ・災害時の不安なこと、支援者について ・介護保険制度外の高齢者福祉サービスの利用意向 ・かかりつけ医・歯科医・薬局について ・拡充が必要と思う高齢者福祉施策 ・認知症サポーター養成講座の認知度 ・認知症があっても住み慣れた地域で安心して生活を続けるために大切なこと ・成年後見制度の認知度と相談窓口について ・フレイルの認知度と取り組んでいること


前回調査（令和4年度）からの主な変更点は以下のとおりです


NO	修正内容	資料	意図
問6（1）	新規追加	資料3-1	厚生労働省が示しているオプション項目に、就労に関する調査項目が追加されたため。
問11（1）	新規追加	資料3-1	地域包括支援センターの認知度を把握するため。
問11（5）	新規追加	資料3-1	高齢者の社会参加等に必要な支援を知るため。
問11（6）	新規追加	資料3-1	タクシー助成券のニーズを把握するため。
問11（13）	新規追加	資料3-1	成年後見制度に関する相談窓口の認知度を把握するため。
問11（15）	修正 (選択肢の追加)	資料3-1	フレイル予防の取組として市が開催するフレイル予防事業への参加を把握するため、選択肢8:市のフレイル予防事業に参加を追加。
問11（8）	消去	参考資料1	既に認知症サポーター養成講座に取り組んでおり、一定の参加者があり、需要があることから質問を消去する。
問11 (11) (12)	消去	参考資料1	成年後見制度の認知度を図る質問に変更したため。
問11(14)	消去	参考資料1	既に複数のフレイル予防事業に取り組んでおり、連続運動教室や地域出前講座などのフレイル予防事業は複数の申し込みがあり、需要があることから質問を消去する。

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査項目の検討

＜調査結果の集計・分析＞

ニーズ調査の結果を集計・分析し、地域包括ケア「見える化システム」等を活用して、地域の現状把握および課題分析を行います。

ここで得られた内容を基に、草津あんしんいきいきプラン第10期計画の策定に向けた取り組むべき方策の根拠とします。

～本日の協議～

これらを踏まえたうえで、本市の介護予防・日常生活圏域ニーズ調査票（案）を資料2-1として作成しました。学識経験者・保健医療関係者・福祉関係者・市民の皆さまから構成されている本委員会で多角的な視点から調査項目を検討し、反映したいと思います。



あんしんいきいきプラン第10期計画策定にかかるスケジュール

1. 計画の期間

令和6～令和8 (2024～2026)	令和9～令和11 (2027～2029)	令和12～令和14 (2030～2032)
第9期計画	第10期計画	第11期計画

○高齢者福祉計画および介護保険事業計画は、3年を1期として策定。

○現行の第9期計画は、令和6（2024）年度から令和8（2026）年度の3か年の計画。

令和7年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事務局					ニーズ調査 項目内示		ニーズ調査準備		ニーズ調査 (12/10～1/10)		ニーズ調査 結果入力	ニーズ調査 報告書作成
あんしん いきいき プラン委員会				第1回委員会 (7/31)					第2回委員会 (11/13)		第3回委員会 (1月下旬頃)	
・ニーズ調査 項目 検討												
令和8年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事務局	ニーズ調査結果分析等											第10期 計画策定
	計画作成準備											
	施策整理・評価											
あんしん いきいき プラン委員会				第1回委員会(詳細日程未定)	第2回委員会(詳細日程未定)			第3回委員会(詳細日程未定)		第4回委員会(詳細日程未定)		
				・ニーズ調査 結果を報告								